

## 連載



お伴としてのChatGPT

# 生成AIアシスト 特許の調査&出願

## 第4回 努力と根性はもう古い? 生成AIを活用した効率的な学習について

深川 栄生 Shigeo Fukagawa

これまで専門知識を身につけるには、分厚い専門書を読んだり、専門家に直接話を聞いたりするなど、時間も手間もかかるものでした。しかし、生成AIの登場により、その学び方は大きく変わろうとしています。

生成AIは、まるでそばに先生がいるかのように、専門的な内容をわかりやすく説明してくれたり、自分の考えを整理する手助けをしてくれたりします。さらに、動画やファイルの中から必要な情報を見つけ出すこともできます。

今回は、生成AIを単なる文章作成ツールではなく、学びのパートナとして活用する方法を紹介します。

### ひたすら思考をAIに打ち返す 「壁打ち」学習

● 時間と回数を気にせずプロンプトを打つべし  
壁打ちとは、本来テニスの練習方法で、1人で壁に向かってボールを打ち返すことを意味します。この考え方を学習に応用したのが、生成AIとの壁打ちです。生成AIを話し相手やアイデアの受け止め役として、自分の考えや疑問を投げかけることで、考えを深めていく方法です。例えば、専門用語の意味を尋ねたり、課題の解決策について相談したりすることで、自分だけでは気づけなかった視点や新たなアイデアを得ることができます。

また、人には聞きにくい初歩的な疑問や、少し変わったアイデアでも、AIは否定することなく丁寧に対応してくれます。こうしたやり取りを繰り返すことで、理解が深まり、自分の考えを整理することができます。

生成AIは、24時間いつでもあなたのペースに合わせて応じてくれる、理想的な壁打ち相手です。

最も簡単な壁打ち方法は、次の3つのステップを組み合わせるだけです。その結果、理解が深まり、考えを整理できます。

#### ● ステップ1 初歩的な質問をする

とにかく、わからない専門用語や気になるキーワード

ドについて質問します。

▶ プロンプトの例：「特許とは何ですか。」

ChatGPTの回答(ステップ1)

特許とは、新しい発明をした人が、その発明を一定期間独占的に利用できる権利です。発明者は国に特許を出願し、審査を受けて認められると、出願から20年間の独占権を得られます。出願内容は原則として1年6か月後に公開され、誰でも閲覧できます。公開することで技術の共有が進み、産業の発展に貢献しますが、その代わりに発明者は一定期間利益を独占できるのです。他人の無断使用を防ぎ、正当な利益を守る重要な制度です。

#### ● ステップ2 わからない部分を質問しまくる

AIからの回答で理解できない部分があれば、どこがなぜわからないのかを具体的に伝えて、わかりやすく説明してもらいます。

▶ プロンプトの例：「公開とはどういうことですか。中学生でもわかるように説明してください。」

ChatGPTの回答(ステップ2)

公開とは、ある情報や内容をみんなが見られるようにすることです。特許の場合、発明を出願してから原則1年6か月後に、その内容がインターネットや特許公報などで公開されます。これによって、他の人が同じ発明をしないようにしたり、新しい技術として参考にしたりできます。公開されることで、発明が社会に広がり、技術の進歩につながります。公開は誰でも見られる状態にすることで、秘密にすることとは反対の意味です。

#### ● ステップ3 自分の理解度を確かめる

ある程度理解できたら、自分が正しく理解しているかどうか生成AIに確認します。このひと手間が、知識の定着を確実なものにします。

▶ プロンプトの例：「以下の私の説明に誤りがあれば指摘してください。」

公開とは、特定の情報や内容を限定された範囲だ